

水環境調査「みんなで知ろう！身近な川の水調べ」の継続に関する研究

安部 尚子（社会人コース）

1. はじめに

「みんなで知ろう！身近な川の水調べ」は、滋賀大学教育学部自然環境教育施設において滋賀大学環境学習支援プロジェクト主催で2007年から行なわれている事業である。この事業は、滋賀大学教育学部附属環境教育湖沼実習センターが行なっていた参加型事業「みんなでつくり水環境マップ」を継ぐ形で小・中学生対象に行われている。小・中学生のグループが水の分析方法を知り、実験装置や器具を使って、滋賀県内の河川の水質を調べるプログラムである。事前に準備した調査用紙とテキストを参照して河川の水質を知るだけでなく、まわりの環境や川の中の様子にも意識できるように工夫されている。さらに、各グループが普段から調査・研究している内容を発表したり、他のグループの発表を聞いたりして、互いに啓発しあうことも目的である。本研究では、この事業がより充実し継続するように、内容を検討することを目的に取り組んだ。

2. 方法

事業日を、例年、夏休みの中の土曜日に設定している。本年度は、8月22日に行なった。県内のエコクラブをはじめ小・中学生のグループで水環境に関して活動を行っているグループに呼びかけ参加グループを募集した。事前に、参加を希望したグループに川の調査テキストと調査用紙を送付し、当日、採取した水とともに持ってきてもらう。参加グループは、午前中に、採取した試水の電気伝導度、透視度を測定し、試水のろ過を行なう。午後には、各グループが活動や調査の発表を行い、交流を行う。

3. 参加者募集方法と参加者

チラシを作成し環境学習支援センターを通じて県内のエコクラブに配布してもらった。また、環境学習支援センターのメルマガに掲載や大津市環境政策部が事業開発されている「OTSUこども環境人」のホームページに掲載してもらうなどインターネットを介して募集を行なった。2009年度は6グループ39名（内11名は引率者）の参加者があった。

4. テキスト作成

事前に調査を行いやすいようにテキストを作成した。また、採水の仕方については作成されていたテキストを子どもにもわかりやすいように写真入りのものに改訂した。

5. プログラム内容

参加グループは、調査をしたい河川で採水および調査を行い、調査用紙に記入して滋賀大学自然環境教育施設に持ち込む。受付を済ませたグループから順に、実験、観察を行う。各担当、各実験、観察などの指導、施設内見学時の酸性雨の話、水生昆虫の同定および観察は、環境学習支援プロジェクトのメンバーである川嶋研究室のゼミ生の支援を得た。

6. 結果と課題

2009年度の「みんなで知ろう！身近な川の水調べ」は、多くの参加者を得て無事終了した。分析結果をどのようにわかりやすく伝えていくかが今後の課題である。また、「ふりかえり」の中で引率指導者の中から実験結果の解説と測定できる項目を増やしてほしいという点が挙げられた。この2点を今後の継続の為の研究課題としていきたい。また、参加児童や引率指導者から「来年も参加したい」「継続して欲しい」と希望が「ふりかえり」の中で書かれていた。これらの言葉を励みに滋賀の水環境を理解し、親しみが持てる子どもたちが多く育つ事を目標にこの事業の継続を願っている。